

令和5年度 第1回松江市農山漁村地域活性化委員会 議事録

1 日時 令和5年11月17日(金) 13時30分～15時30分

2 場所 松江市役所第4別館 3階 教育委員会室

3 出席者(敬称略)

(1) 委員 (12名中、出席者11名)

小笹 伸一郎、岸本 定朝、渡部 旭、吉岡 伊予、桑原 正樹、新宮 紀彦、安部寿鶴子、  
河野 美知、森脇 香奈江、保永 展利、松尾 敦子 以上11名

(2) 事務局

松浦産業経済部長、大谷産業経済部次長、永井産業経済部次長(農業委員会事務局長)、  
恩田農政課長、寺本農林基盤整備課長、船越水産振興課長、西田商工企画課長、  
高見農林基盤整備課長補佐、平塚農業企画係長、山野副主任、渡部副主任

4 次第

1 開会

2 委員紹介

3 会長・副会長の選出

4 会長挨拶

5 議事

松江市農山漁村地域活性化基本計画の評価・検証について

次期松江市農山漁村地域活性化基本計画の策定について

6 その他

7 閉会

5 会議経過

別紙のとおり

6 所管課等

松江市産業経済部農政課農業企画係

電話 0852-55-5225

発信者	議 事
事務局（永井次長）	<p style="text-align: center;">＜13時30分、開会＞</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、只今より「第1回松江市農山漁村地域活性化委員会」を開会いたします。</p> <p>私は、本日、議事に入るまで司会を務めさせていただきます、産業経済部次長の永井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>委嘱状につきましては、本来であれば、お1人お1人に手渡しでお渡しすべきところですが、時間の都合上、委員の皆様のお手元に置かせていただいております。これをもちまして、委嘱状の交付に代えさせていただきますと存じますので、ご了承頂きますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>本委員会は、松江市情報公開条例及びそれに基づく審議会等の公開に関する要綱の規定によりまして、全て公開で行います。また、会議録を作成するために音声を録音させていただきます。本日は、概ね15時30分の終了予定時刻としておりますので、円滑な進行にご協力をお願いします。</p> <p>それでは、事務局の担当部長をしております、松浦産業経済部長よりご挨拶申し上げます。</p>
松浦部長	<p>皆さん改めましてこんにちは。</p> <p>今回はこの農山漁村活性化委員会の委員を快くお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本委員会は条例に基づいて設置しております。先程、担当者から、情報公開に関する規定、議事録の作成、それから音声によって事実を残させていただくことをお断り申し上げましたが、だからといって、言葉を選んで発言してくれという意味では全くございません。忌憚のないご意見をどんどん言っていただきたいと思います。また、委員会は、2時間ぐらいの目安と申しましたが、もっと時間が長くても全く構いませんので、活発にご議論いただければと思っております。</p> <p>十分とは言えないと思いますが、日頃から松江市が行っております農林水産業施策に関しまして、皆様方からご理解、それからご協力を賜っておりますことをこの場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。</p> <p>昨今のいろいろな紛争に基づいての食料安保や、それから今、農政の憲法と言われる「食料・農業・農村基本法」が20年ぶりに根本的に見直しをすると</p>

いうことで、国においては喧々譁々やっております。

私は農林水産業の全くの素人で、自分自身もそういった経験は全くありませんし、親戚縁者も全然おりません。ですからスーパーマーケットでお金を出して買うという価値観・基準を持って60年近く生きて参りましたので、偉そうなこと言う資格はないですが、一次産業は、全国一律に行われるようなものでは当然ないということは自分なりには理解しているつもりであります。それから松江市内地域も広がりまして、これも松江市内一律にこうだということはできないというのも当然理解をしているつもりです。

松江は大きく分けて北側と南側に分かれます。北側でも半島部という、いわゆる外海に面している部分、それから中海宍道湖といった内海に面している部分では当然違いますし、陸の状況も違うし、それから森の状況も違います。同じように南側も同様なことが言えます。

農林水産業を取り巻く環境は、ここ数年で著しく激変をしている状況にあります。

そういった中で、今回、農林水産業の非常に主となる施策を決める計画である農山漁村地域活性化計画の策定に当たりまして、皆様方にお出かけをいただき、この先数回にわたりましてご議論をいただいて、策定をさせていただくということになります。

この計画は理念的な計画でありますので実際にそれぞれの年度で行っていく事業というのは別途アクションプラン（実施計画）を立てさせていただきまして、予算付けをして、皆さんと相談をさせていただきながら、いろいろな事業を進めていくということになるかと思えます。

とはいえ、そのベースとなる計画がきちんと皆様方の実態に即した内容になっていないと、その実施計画もずれていくわけありますので、そういった意味で先ほど冒頭申し上げましたように、皆様方の現場を通じて経験された忌憚のないご意見は非常に我々にとって貴重な意見となります。

実際にやっていただくのは当然プレーヤーである皆様方ですが、我々は権限があり、いろいろなことを決められる仕組みになっています。

正しいことをやらせていただくためには、やはり正しい情報、正しい現実というものを理解する必要が当然あります。

そういった意味で、何回も申し上げておりますけど、こういった機会が非常に重要であり、貴重だいうふうに認識をしておりますので、どうぞ数回にわたりましてお出かけいただいているいろいろとご足労かけますけれども、最後までよろしくお願ひしたいと思えます。

会議の開会にあたりまして簡単でございますけれどもご挨拶をさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

事務局（永井次長）

続きまして、委員紹介でございます。お手元に配布させていただいております、資料4 委員名簿と席次表をご覧ください。

恐れ入りますが、時間の都合上、所属とお名前を事務局から読み上げさせていただきます、ご紹介とさせていただきます。

御津大敷網組合 小笹 伸一郎 様  
 くにびき農業法人会 岸本 定朝 様  
 松江市認定農業者協議会 渡部 旭 様  
 公募委員 吉岡 伊予 様  
 宍道湖漁業協同組合 桑原 正樹 様  
 松江森林組合 古曳 正樹 様（欠席）  
 島根県農業協同組合くにびき地区本部 新宮 紀彦 様  
 道の駅本庄企業組合 安部 寿鶴子 様  
 株式会社ちいきおこし 河野 美知 様  
 合同会社式百円 森脇 香奈江 様  
 島根大学生物資源科学部農林生産学科 保永 展利 様  
 松江商工会議所 松尾 敦子 様

先ほど申しましたように古曳委員は、本日所用によりご欠席との報告を受けております。

それでは、本日の委員会委員の出席状況について、私の方から報告させていただきます。

ただいまの出席委員は12名中11名でございます。12名のうちの過半数の出席をいただいております。

本委員会規則第3条第2項の規定に「委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。」と規定してございます。本委員会については、過半数に達しておりますので、成立しておりますことをご報告させていただきます。

次に、会長副会長の選出に移りたいと思います。会長及び副会長の選出については、本委員会規則第2条第2項の規定において、「委員の互選により定める」とされております。

そこで、事務局として提案をさせて頂きたいと思いますが、皆さまよろしいでしょうか。

<異議なし>

事務局（永井次長）

そういたしますと、提案をさせていただきます。

	<p>会長は、学識経験者である島根大学生物資源科学部農林生産学科准教授 保永展利様、副会長は、くにびき農業法人会会長 岸本定朝様にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>よろしければ拍手をもって承認をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">＜拍手、承認＞</p>
<p>事務局（永井次長）</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>拍手多数により承認されたものといたします。</p> <p>それでは保永会長、岸本副会長のお2人はそれぞれの席へのご移動をよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">＜会長、副会長移動＞</p>
<p>事務局（永井次長）</p>	<p>それでは、保永会長、ご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>保永会長</p>	<p>改めまして、島根大学の保永と申します。</p> <p>私は、中山間地域の活性化について研究してきました。どちらかという、松江市というよりは山間部の調査をやっており、松江市自体はそれほど関わりが少なかったですが、こういう場をいただきまして、松江市についてもいろいろ関わっていただければと思います。皆様方からいろいろ教えてもらいながら、この計画をまとめていければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局（永井次長）</p>	<p>岸本副会長、ご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>岸本副会長</p>	<p>岸本でございます。私は現場で農業の法人をつくりまして、実践をしているところです。</p> <p>先程部長からお話がありましたが、最近では、現場的には非常に厳しい状況がありますけども、松江市の農業振興のため、もう一層頑張っていきたいなというふうに思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局（永井次長）</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>そういたしますと、議長につきましては、本委員会規則第3条第1項の規定により会長が務めることとなっております。</p> <p>保永会長様、よろしくお願いいたします。</p>
<p>議長（保永会長）</p>	<p>それでは、委員会次第によりまして、議事に入りたいと思います。</p>

	<p>まずは、議事「松江市農山漁村地域活性化基本計画の評価・検証について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局（平塚係長）	<p>議事「松江市農山漁村地域活性化基本計画の評価・検証について」説明（資料1、2）</p>
議長（保永会長）	<p>議事について、事務局から説明がありました。 平成25年度から令和5年度までの基本計画の検証ということで、資料1は概要版には、農業生産額の推移などのデータや、目標値、分析結果や今後の方向性についてまとめてあります。 これについて、委員の皆様からご意見、ご質問はございますでしょうか。</p>
森脇委員	<p>基本方針2の農水商工連携事業について、今まで88品目作られて、現在47品目が販売中ということですが、ヒットして、人気でずっと売れ続けている商品とその理由を教えてください。</p>
事務局（西田商工企画課長）	<p>平成22年から販売されている商品のうち、現在も販売されているのは、例えば、いちじくジャムや西条柿アイス等です。 傾向として、加工するその生産物が、一定量確保できやすいものが比較的残っております。 売れなくてやめたという事業者の中には、生産物がなかなか入手できない時期があったり、年によっては全く入手ができなくて、販売中止になったこともございました。そういったこともあるので、一定量確保できるような生産物の方が比較的ずっと販売されている状況にあると思います。 特にヒットしている商品としては、例えば、玉造の神社クッキーのような、その販売する事業者が多方面でその商品をPRするというのを継続して行っているところも一つの特徴だと感じております。 今後、いろいろ新商品の開発の相談等もあれば、そういったことも踏まえ、フォローアップしながら継続的に商品を売り続けるというような仕組みも考えていきたいと思っています。</p>
安部委員	<p>道の駅本庄の安部です。お世話になります。 2点ほどお話をさせていただきたいです。 先ほど農産物の生産振興というところで、お米にかえて、いわゆる野菜類の売り上げを伸ばしていこうというお話があったと思いますが、お米っていうのは水稻というくらい、水に強く栽培をするにはいいという風に聞いております。しかし、野菜に関しては、非常に天候に左右されるものではないかと思う</p>

ので、そちらを伸ばしていこうとなると、これは人的なものよりも、本当に自然相手のことになってくると思います。今、ましてや高温障害が出てきている中で、ハウスとか、何かそういう手立てがないと、野菜が伸びていくっていうのは、非常に厳しいのではないかと感じました。

それともう1点は、漁業の関係でございます。

漁獲量の話が、先ほどの4ページのところにございましたが、宍道湖のしじみに関しては、ほぼ横ばい或いは増加傾向にあるところが、サルボウガイは、令和4年は2.5トンというふうに、極端に減っております。

この違いは、種苗技術というよりも、水質、これが非常に影響して、実は今年も最初の頃は非常にたくさんあるというお話でしたが、今は水質が悪化して、1トン死んでいると、いうお話を漁業関係者の方からお聞きしました。

それぐらいサルボウガイの養殖に関しては、種苗の技術継承も大事だと思いますけれども、漁業の気象条件や環境変化に対応しきれていないっていうのもかなり影響しているのではないかと思います、そのあたりについてのご検討は、いかがなものかと思いました。

事務局（恩田農政課長）

まず野菜を伸ばしていくために、野菜が天候に左右されやすいので、ハウスなどの整備といった手立てが必要ではないかというご意見をいただいております。

ハウスの補助につきましては、対象が認定農業者と認定新規就農者になっておりますが、導入にあたって、補助する制度がございます。

毎年、数件ではございますけれども、ハウスを新しく建てられて、野菜や果物などの栽培を増やしていただいているところです。

また、露地野菜につきましても、田んぼの圃場整備で排水条件とかも良くなりますので、玉ねぎなど、米に代わって、野菜の生産を増やされるといった地区もございます。露地野菜、ハウス野菜の両方で増やしていきたいと考えております。

事務局（船越水産振興課長）

先程、中海のサルボウガイの関係でのご質問でしたが、令和3年度につきましては、豪雨と、それに伴った水質の貧酸素の影響で、多くのサルボウガイが変死したと漁業関係者から伺っています。

今年度から、中海のサルボウガイにつきましては、島根県が区画漁業権を決定いたしました。サルボウガイの生業ということで、今年度から島根県で3年間、集中的に技術的な支援を進めていくというところで、今のところ特に貧酸素、つまり酸素の濃度が薄くなると変死する要因となるので、その貧酸素の状況等をきめ細かく漁協へ情報提供し、この状況により、吊るしている貝を、上下に移動させるといった指導をしながら、変死を少なくしていく、というよ

安部委員	<p>うな対応をとっていくと伺っております。</p> <p>漁業関係者の方からは、人工種苗の際、いわゆる種について、今まではいろんな支援があったが、今後は生業としてやっていくので、自分で育てていくしかないというところで、その辺りもかなり厳しい現状があって、生業としていくためには、非常に厳しいというお話を現場からは聞いております。</p> <p>実はサルボウガイは、地元民だけではなく、こちらから出て行かれた都会にいらっしゃる方々も、非常に興味とか関心を持ってらっしゃって、食べたいという要望が来ております。</p> <p>なので、是非ともこれはご支援していただける漁業関係者の皆様に対してのご支援をできるだけ考えていただいて、食べたいという消費者の皆様のご期待にも応えられるように、今後とも支援をしていっていただきたいと願っております。よろしく願いいたします。</p>
議長（保永会長）	<p>目標が高く設定しており、なかなか達成できていない状況であるので、その点についても考えていく必要があると思います。</p>
渡部委員	<p>松江市認定農業者協議会の渡部です。普段は(有)安藤農園という種苗店と生産物を生産している会社をしています。</p> <p>農業関係についてですが、水田園芸ってものすごく叫ばれていますが、水田から畑にするって非常に大変なことで、そこで、野菜を作って、それが収益に見合うものかどうかというのは、非常に疑問です。</p> <p>また、特に品目を絞ってあるキャベツや白ネギなどは、県の方針をそのまま取り入れていると思いますが、それが松江市に合っているのか、非常に疑問を思っています。</p> <p>野菜を作るって結構労力があるので、それを水田条件が悪いところを無理やり畑にして作物を作って、非常に大変な思いしてやるべきなのか、それと高齢化も非常に進んでいるので、どちらかというところそういう品目に縛られないようなやり方で、果樹を植えても良いだろうし、もうちょっと現場に合ったような品目選定とかを進めていく方が良いのかなと思います。</p>
事務局（平塚係長）	<p>先程、水田を畑に変えて水田園芸を推進していくということで、その辺の難しさは、県が推進6品目を示された時に、非常に難しいという話があり、このことは市も認識しております。それで、その辺を解消するためには、やはり排水性が一番という認識を持ってもございますので、耕作条件改善事業とかも導入しながら、対応していきたいと考えております。また、すべての県のいろいろな事業が推進6品目中心に支援されていることでもありますので、県の支援を</p>



うまく活用するということも考えております。

いずれにしても冒頭に部長が申し上げましたが、松江市域も広く、すべて同じようにといったことは難しいと考えておりますので、そこら辺は地域の現状を見ながらと思います。

また、今、ブラックジョーを進めております。それは、JAの販売戦略、そういったものにも繋がっているものでございますので、品目選定につきましては、JAともお話をしながら、地域に合った品目や取り組みを推進して参りたいと思いますので、今後ともそういった現場のご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

河野委員

株式会社地域おこしの河野と申します。

松江産品のブランド化のところで、もう少し松江にはどんな野菜があるのか、水産物があるのか、しじみっていうのはよく知っていると思いますが、しじみ以外に松江って何があるのっていうのが、松江の人もあまり知らないことが多いと思いますので、このSNSとかユーチューブ、ホームページで紹介するというのは、担い手のところでは書いてありますが、そのブランド化推進のところでは書かれてないので、ぜひ、そういうメディア戦略とかもその松江産品のブランド化で図っていくっていうのを、計画の中に文言として入れていただきたいと思います。

もう1つは、予算ベースのことが書かれてないので、費用のことはわかりませんが、私たちもこの特産品開発のところで補助金いただいて、ありがたいことにトマトジュースを作らせていただいて、それが今もヒット商品としてあります。その農水商工連携の特産品の補助金は、10分の10で10万円っていうのはありがたいですが、10万円で何ができるかって言ったら、ちょっと厳しくて、大体デザイン費用だけで20万円くらいかかり、試作品を作ろうと思ったら1ロットで20万~30万円かかるという予算規模の中で、10万円の金額ではなかなか新しい特産品を生産者とメーカーが組んで作ることはちょっと厳しいなど。その辺の補助金の精査っていうのも、ぜひ、していただければありがたいなと思います。

事務局（恩田農政課長）

まず最初に、今ある松江の野菜や海産物がどういうものがあるのか、それをどうブランド化していくかといったようなことを、次の計画には記載して欲しいというご意見をいただきました。

大変おっしゃる通りで、私たちも今パッと松江にはこんな野菜がいつ頃あって、こんないいものですよといったものを、すぐにお示しできるものができていない状態ですので、次の計画を作るときには、計画には記載をしていきたいと思っています。貴重なご意見ありがとうございます。

事務局（西田商工 企画課長）	<p>河野委員から、商品開発の補助金についてご質問いただきましてありがとうございます。</p> <p>実は今年度から、10分の10の補助金をちょっと補助率を引き下げ、3分の2にして、できるだけ多くの方にご利用していただけるような取り組みを進めようとしております。</p> <p>今年度はありがたいことに今予定している予算分ほど、ご申請いただいております。その様子を見ながら、今後、補助の仕組みについても少し踏み込んで変えていきたいなと思っております。</p>
議長（保永会長）	<p>規模が大きく費用のかかるものもあると思いますので、補助金のやり方をタイプ分けするなど、一度整理して、議論するのも良いかもしれません。</p>
小笹委員	<p>御津大敷網組合の小笹と申します。</p> <p>定置網の観点から、漁業者として言いますと、担い手の確保っていう形で研修支援の給付金や設備のサポートをいただいておりますが、やっぱり設備を使うのも漁業者、使わせていただくのも漁業者で、漁業者の担い手の確保するのはすごく急務かなと思っております。</p> <p>僕らのところだけで言うと、今勤めて7年ですが、7年間で9人の新規漁業者を生んでおります。</p> <p>水揚げもそれに際して平均として2.5倍ぐらい水揚げの実績も伸ばせております。そこに関しては担い手の部分がすごく大きいのかなと思っております。</p> <p>ただ僕らのところは今そういう形ですが、県内、市内でもそうですが、定置網の従業員はすごく高齢化がすごく進んでいて、存続が難しいところがどんどんできております。</p> <p>そういった面から、現場の漁業者の中でのアドバイザーが必要だと思っております。</p> <p>各地域で漁業権の制定しているルールや、漁業権でできることってすごく違って、各地域の知識のあるキーマンとなる漁業者が、きちんとその地域のヒアリングをしっかりと、漁業フェアなどに出ていくことで、よりマッチングできる機会は多くあるのかなと思っております。僕らはある程度の人がいることがありがたいですが、ただ、周りの漁業者はすごく元気がなくなっていて、そこにすごく課題を覚えています。</p> <p>吉岡委員もそうですが、松江の中でも、今、一次産業者の集まりを自分たち独自で作っています。その中で、農業者の方からも、横の繋がりが全くないだとか、そういった交流自体がすごく薄いというご意見が出ています。</p> <p>商品開発の部分でも、生産しながら商品開発をしていくことはすごく大変な</p>

作業で、河野委員がおっしゃっていましたが、そういった補助のやり方や、サポートのあり方は今後課題だと思います。

担い手の確保について、金銭面だけのことではなくて、しっかり語れる現場のスタッフっていうのは、市の方だけじゃなくて、プレイヤーにもいないと今後は厳しいのかなと思います。

農業でも多分現場のアドバイザーが必要になってくるのかなと思います。どういことをやりたいのかっていうことに対して、じゃあどこ結びつけてあげたらいいのか、ここ出雲地区ありそうだなとか、Uターン数にも繋がってくるのかなと思います。

次の計画を策定する際にはそういったところを強化していただくとすごくありがたいと思います。

事務局（恩田農政課長）

一次産業者の皆様の集まりや、知識のある先輩の方が地域での知識などを若い方などに教えてあげることができる集まりが次期の計画では入っていると良いというご意見をいただいたとっております。

松江市でも昨年から一次産業者の皆様の集まりを作っていきたいと、努力をしておりますが、なかなか実現できてないところでございます。

次期計画に向けまして、記載できるように、また実現できるように検討して参りたいとっておりますので、皆様のご意見・ご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（松浦部長）

補足ですが、小笹委員から非常に貴重なご提言いただきまして、担当の農政課長も申し上げましたが、逆に私から早々からその話をずっと提言をしておりました。

各業界の集まりによって、各業界同士の横の連携、その業界の中での連携が生まれますので、集まりというものは大事です。それから異業種の方々ともいかにマッチングをして、先程の河野委員がおっしゃっていたような新しい産品やチャンネルにつなげていくことができないかいろいろと話を進めています。しかし、今こうやってお集まりの皆さんのように、農業、林業、水産業と全然その状況が違っていて、なかなかそれを一次産業ということで、十把一絡げにするのは非常に難しい状況があります。

今の話で最終的にやはり儲からないといけませんので、集まってグダグダ文句言ったってしょうがないわけです。

そこは全体のマネジメントもちろんですが、そういったバイヤーにつなげるハンドリングは、はっきり言って、行政では駄目です。本日のように人を集めて、話し合うっていうことができますが、なかなかそういった儲けに繋がるような集まりで、それを、実をとってやっていくことはなかなか難しいところがあ

るので、キーパーソンも含め、全体をつなげていただけるようなパートナーをいろいろ探していますが、なかなかこれだっていう方がいらっしやらず、出雲弁でいうあずっている（手こずる）状況が続いています。

一方、昨今スタートアップということで、新しい起業創業にスポットを当てたMATSUE 起業エコシステムという取り組みも同時にやっています。それは、アイデア段階でいろいろな悩みを持ち寄れる場を作って、そこに若者の方やいろいろなアイデアを持っている方が、不定期に集まって勉強会をしたり、それぞれの悩みを相談されるものです。だからまずは手始めにはそういったような皆さんが気軽に集まれるような場をどこかに作って、そこへ行くと誰かがいる、何とかなるみたいな、そういうのが何とかできないかなとずっと言っていますが、なかなか現実には難しいところがあるかなということです。そうは言っても、できることから、皆さんと協力しながらできたらいいかなと思っています。

それから話は違いますが、支援制度についても、国や県で制度化されているお金の紐がついているようなものは、松江市独自でいろいろやるのはなかなか難しいですが、市単独でやっている支援制度は逆に、本当に昨今のエネルギー高、それから円安、こういったもので状況が変わってきていますので、ご支援申し上げる金額自体の引き上げも含めて、それは検討させていただきたいと思っています。

ただ補助金っていうものは、未来永劫あるものでは当然なくて、やっぱり頑張られる方に対してはきちんと支援をさせていただくのは当然のことだと思いますが、やはりそのイニシャル、最初が一番どうしてもリスクが高いわけなので、そこを我々はその皆さんからお預かりした税金でもって、ご支援をさせていただいて、スムーズに立ち上げをしていただき、軌道に乗るまで頑張ってくださいというものが、我々の役目じゃないかと思っています。使われない支援制度なんて支援制度じゃありませんので、その辺もいろいろとお話をいただいて、またご意見いただければなと思っています。

議長（保永会長）

非常に大事なポイントで、都市というとやはり若い人がクリエイティブな仕事に取り組んでいるっていうことがないと、都市としての存続もおそらくないと思います。

ぜひともそういう集まる場みたいなものができるとういのがいいのかなと思います。

森脇委員

ジビエの事業は、関わらせていただいておりますが、お金に変えることは民間の仕事だと思うので、頑張っていきたいですが、鳥獣対策が根本にあるので、取ったイノシシも半分ぐらいが廃棄となっていて、全部が肉になるわけではないです。

	<p>行った集落で、とにかく取って欲しい、取ったものは肉にする余裕がないからどうにかして欲しいという意見はすごく出てきています。関わらせていただいた立場から、頑張ればちゃんとお金に変わるってということが証明できるので、そこを完全に民間では難しく、処分と処理を分けて考えないといけないことと、集積をしっかりとしていくと、資源として使えると思うので、処分に関して今どのように考えられてるかを聞かせていただけたらと思います。</p>
事務局（寺本農林基盤整備課長）	<p>鳥獣に関して、(同) 弐百円さんには大変お世話になりありがとうございます。</p> <p>今年も10月末までに大体1,300頭ぐらいの鳥獣が取れまして、処分についてはほとんどが埋設されている状況です。</p> <p>利用されている人が多分1割ぐらいだと思ひまして、あとは自家消費ということで少し使われている状況があります。</p> <p>数は少ないですが、エコクリーンに搬入するという方法もありまして、これは袋に入れる大きさに解体しないとイケないということでなかなか利用が進んでおりません。</p> <p>猟友会の方も、お年を召した方が多くなってきておりまして、埋設も大変だという声もお聞きしている状況です。</p> <p>今松江市としての対策は持っていないですが、今後の課題だと思ひているところですので、またいろいろなご意見をいただければと思ひております。よろしく願ひいたします。</p>
事務局（松浦部長）	<p>補足ですけど、取る人がいないとどうしようもない。まずはその確保が一番大事かなと思ひます。</p> <p>そして、宣伝になりますが、11月23日に、新しい市役所のテラスで、ジビエフェスタを開催していただきますので、皆さんご都合が良ければどうぞ。</p> <p>そのようなイベントを通じて、銃を持って、獲物を取るといふような体験コーナーを設置していただいております、そこが若者に刺さったらしく、島大生が狩猟免許を取っていただいたということで、少しずつですが、若返りということが一番入口ベースであります。</p> <p>そうするとまず山の中で取れたものを里へ下して、解体処理施設まで持っていく、つまり搬出ができる余力が出るので、そこは期待したいなと思ひています。</p> <p>解体処理施設ですが、松江市としては本当に解体をきちんとやって、それだけのロットを処理することが可能であれば、施設整備の拡充の支援については準備があります。</p> <p>ただ今のお話で、解体される組合さんがいらっしやって、こちらが、いやもう</p>

	<p>これで良いという感じになると受け入れてもらえないわけであり、そうすると、その先に話が進まないということがあるので、そちらの方々とも今後話をするようにという話を今しております。</p> <p>いずれにしても、とにかくプレーヤーになりますので、やはり現場の方にやっていただかないとどうしようもないので、我々はそこら辺を誠心誠意、真心をもって接するということができないので、そういったような状況でありますので、現場の皆さん方のご理解、ご協力をいただければ、一緒になってできるかなと思います。</p> <p>いろいろな意見が出まして、農産物、特産品開発、補助金、野菜が現場に適しているかどうかなど、漁業に関しては、アドバイザーのこと、水質の問題をどうしていくかなどの意見が出たと思います。農林水産業に関わる自然環境・条件のこともありますので、その辺の改善についても今後検討いただければと思います。</p> <p>以上の委員の皆さま方の意見を踏まえて、次期基本計画に反映していただければと思います。</p> <p>委員の皆様よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜異議なし（各委員）＞</p> <p>それでは、次の議事に入りたいと思います。</p> <p>議事「次期松江市農山漁村地域活性化基本計画の策定について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局（平塚係長）	<p>議事「松江市農山漁村地域活性化基本計画の策定について」説明（資料3）</p>
議長（保永会長）	<p>議事について、事務局から説明がありました。</p> <p>資料3については、令和6年度から令和11年度までの計画の見直しを進めているということです。最後のページには、赤字で事務局案として記載されていますが、この委員会で意見を出して、体系を作っていければと思います。</p> <p>これに関して、ご意見、ご質問はございますか。</p>
桑原委員	<p>宍道湖漁協の桑原でございます。</p> <p>基本計画のこの部分と論点が少しずれていたら申し訳ないですが、宍道湖の漁業の現状と課題というような、イメージでお話しさせていただければと思います。</p> <p>先程、河野委員からもお話ありましたが、シジミが宍道湖の場合はメインで</p>

ございます。今後10年後の計画でございますが、どうしても親の貝を取ってしまえば、後に続く貝がなくなってしまうから、今後の10年に関しても引き続き資源管理を行いながら、操業を続けていければと思います。しかし、シジミについての一番の課題として、だんだん食べる人が少なくなってきました。やはり汁を吸わない方も増えておられます。松江市は、消費量の中では全国で一番ですが、全国的にはだんだん食べる人が少なくなっています。多分10年後ももっと少なくなると思いますので、そういったところの支援を今もいただいておりますけれども、引き続きお願いができればというふうに思います。

その他の魚種となりますと、今、ワカサギ、アマサギがほとんど取れなくなりましたので、メインとなってくるのが、11月15日が解禁でしたけどシラウオ、あと冬場のフナ、宍道湖天然ウナギの産地ですので夏のウナギ、そうしたところがこれからの宍道湖のメインの魚種になってきます。またこれもそれぞれ課題がございまして、シラウオは1年で死ぬ魚なので、年の変動が激しいです。シラウオは刺し網というすごく上手い営みでそれを漁獲します。だんだんと冬場宍道湖の水温が下がりますので、ほとんどの魚は、海の方に帰りますが、こういう帰る時期がだんだんと水温が上がってきた関係もあると思いますが、12月に帰っていたのが、最近は1月の中旬に帰るようになり、だんだんと遅くなってきています。

気候変動の関係で10年後はさらに進んでくると、魚がいると網が破られてしまつてつけられないから、網をつける時期がだんだんと少なくなっていくます。また、今までは3月の春分の日ごろに魚が上がってきていたのが、だんだん3月の中旬になったりと、入ってくる時期も早まっていますので、だんだんと漁期自体が少なくなっている状況もあります。マニアックな話で申し訳ないですが、あわせて、網を作る方もおられなくなつてしまつて、刺し網を求めたくても求められないような状況になってきていますので、シラウオがいてもなかなか取れないというような状況が今後10年だと懸念されるのかなと思います。

また一方、冬場の名産はフナですが、宍道湖のフナは汽水で育つので臭みがなくておいしいですが、特に若い人で食べる人がどんどん少なくなつてきていますので、10年後つてなつたときには、冬になつたので宍道湖のフナだなどと思う人は、多分今よりもっと少なくなつてくるかなと思いますので、これもフナはいて獲れるかもしれないけど、売れないから取れないというような状況が今よりもっと起こってくるのかなと思うので、そういったところへの対策も必要かなと思います。

夏場はウナギが名産になってきますけれども、ウナギはずっと遠くの海で産卵してこっちに来るといふ魚ですので、宍道湖の現場で増やすという魚ではあ

りません。現在、松江市から放流事業を助成いただいておりますけれども、引き続き、助成をいただきながら、放流をして、そこで育てて、漁獲をするというようなことで、今後10年についても漁獲量の維持に努めていければと思います。

この計画の資料を調べる中で、どうしても我々は水辺環境から自然が豊かな環境の中で、その生き物から生業の過程を経ておりますので、自然環境の豊かさというところが一番になってきます。みどりの食料システムなどの計画は、国が策定されていて、2030年に向けての目標も定められていると伺っています。あわせて、SDGsのお話がありましたけれども、2030年までに30%の場所を地域の保護地域に指定をして自然を守っていきましょうという取り組みもあると伺っております。松江市は、SDGsや脱炭素の先行地域であったりなど、環境に配慮した取り組みを他の地域よりも率先して進めておられるのかなと思いますので、こういった農村漁村の活性化にも、そういった環境の部分のところも、今後10年の部分で強く取り入れていただければなと感じました。

議長（保永会長）

食べる人を開拓していくということも考えていけないかもしれません。お店によっても結構シジミ汁の味が違う。PR不足な感じもしますが、どういう人をターゲットにしていくのかなどを含めて考えていた方が良くかもしれません。

事務局（松浦部長）

今の消費に関する話で、何でもやはり出口戦略、物が売れなければ買う人がいなければ、作ってもしょうがないわけです。そこが一番のポイントだという話は、常日頃、職員にはしております。

ただ商売するということはやはり役所が一番苦手なところでして、自分たちが率先してやることはできないし、やってはいけないことなので、痛し痒しのところなんです。だから、そういったような方々といかに皆さんをお繋ぎするかということが、我々の与えられた役割かなと思っております。

シジミのお話が出ましたが、シジミ汁だけを気軽に飲むという場所がないことがおかしいじゃないかという話になって、河野委員が経営しているらっしゃる大手前のMatsue Châté（マツエ チャッテ）というお店で、カップシジミ汁を販売していただいております、ご好評をいただいていると伺っております。加えて、県立美術館の中にRACINE（ラシヌ）というレストランあり、こちらの方が根っこや、こ根っこやを経営しており、こちらは今シジミ汁の開発に着手していただいております、近日中に売っていただくというようなことになっております。

それから七珍についても、駅前の和らくさんが、宍道湖七珍めし会席と銘打



ってやっていただいています。モロゲエビがなかなか手に入らない状況になっているということで、私が試食会をした時には、たまたま天然のをいただいたということがあるんで、

先程から地産地消ってありますけど、たった20万人しかいないところで、そのマーケットをきちんとやっていくっていうのはなかなか限界があると思います。とはいえ、やはり足元からやっていかないと、全国には当然広がっていかないので、やはり地域の方々が地域にあるブランドを、自信を持って、県外、世界へ売っていく、発信していくっていうことがまずないと。要するに島根県は駄目だわ、松江なんか駄目だよって言う大人がいっぱいいると、次を担う子供たちもつまらないから東京や大阪に出ていっている状況が現実なので、やはりそこら辺をきちんとやらないといけないと思っております。

そういったようなことから、JAさん、宍道湖漁協さんしか来ていらっしやいませんですけどJFさん、販売戦略等で商工会議所さん、今日来ていらっしやいませんですけど森林組合など、そういった方々とも一緒になって、バイヤーと繋がってマーケットをいかに探して魅力のある商品にしていくかっていうことが大事なので、みんなでやらないといけないかなと思っています。

開発だけやれば良いってものでなくて、やはり農業も林業も水産業もみんな繋がっていて、森から全部始まって、海まで水が流れているので、森をめちゃくちやにすると、海も駄目になっちゃうことはもうわかったことで、そこら辺をどうバランスを取りながらやっていくかっていうことが大事です。

そういったことで、今日お集まりの皆さん方が高い意識を持って現場にこういった話し合いを持って帰っていただいて、広めていただくっていうことは非常に大事です。皆さんSNSが得意だと思いますので、ぜひ、発信拡散していただけたらと思います。

議長（保永会長）

いろいろみんなに関心を持ってもらうことが大切だと思います。

岸本委員（副会長）

岸本でございます。

私は農業委員会に関わっておりまして、この度、基盤強化法という法律が改正になって、地域における農地をどうするのかと、維持、将来的につなげていくかということで、10年先にこの農地は誰が作るのかという目標地図というものを作らないといけないようになりまして、農政課とともに主体となってこれから取り組んでいくこととなります。そこでいろいろな地域がございまして、特に農村部ですが、誰かがやるということになれば、その地域も活性化していけるのではないかと思います。

担い手の繋がり的问题も先程お話がありましたが、そういうことを踏まえて、今後そういう取り組みをしっかりとやっていければなというふうに思ってお

りますし、松江市は本当に日本の縮図みたいなところでもありますし、そういう視点で、取り組んでいただきたいです。これまで皆さんが言われたことを踏まえてしっかりした計画を策定していただきたいなと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

小笹委員

私は、(株) Mitsu Fisherman's Factory という会社をやっておりまして、そちらの方での感じたことやご意見なのですが、僕ら、生産者としながら、販売者であり加工者でもあるという形でやっております。その中でいろいろなお客様、いろいろな県外の方やいろいろな地域の方と接する機会がありますが、やはり一次産業者の日常や生活自体が、非日常で、一般の方が味わえないもので、僕らの普通が、生活自体が普通じゃないということをしごく言っていました。

9月に農水省の方にも行かせていただき、その中で農山漁村イノベーション事業といって、民泊や体験事業を盛り込んで、これをやっていくという話を聞いてきました。(同) 式百円さんもやっておられますが、そういった僕らの日常っていうのを観光会社に入ってもらったりとかしながら、生産の現場だったりとか、そういった事例が自分たちのお口に届くルーツを辿ることで、それ自体で消費者さんから育てていくというか、消費者の方に伝えることで僕らがまだまだできることもたくさんあると思っていて、それをすることで消費を促していく。

僕らも社会の授業で漁業のことを話に行くことも最近増えてきています。あとはやはり僕ら自身も、自分たちがやっていること自体をもっともっと生かしていくべきだなというふうに思っています。そこではいろいろな産業の方と手を取り合ってやっていく必要があるのかなということで、まだまだ可能性としては、しごく未来は明るいものだと思います。今、若手の一次産業者の会でもそういった話もしますし、もちろん商品開発をしていこうという話もしていますし、またそういったことに対して検討いただく機会だったりとか、そういったところに対してのフォローだったりとかもあるとしごくありがたいなと思っています。

僕らのところでは、漁業体験も事業の一環に今後していくつもりですし、それも踏まえた宿泊事業、体験事業というものの支援も動いているところなので、そういった活かせる商材、産業、資源というのが、実際の資源だけじゃなくて、観光体験っていうところも、そういう資源には入ってくるなと思っているので、そういったところに関して何か地域を持続化させる、活性化させるっていうところでは一つ入ってくるのかなと思います。なので、検討していただきたいと思っておりますし、また、皆さんで検討していく議題になってもいいのかなと思います。

議長（保永会長）	<p>農家民宿自体が減ってきているということがあります。昔50代から始めた人が80代になり、辞めてなくなっていくという形で、ちょうど入れ替わる時期なのかなと感じています。このような中で、新しい産業体験の形を模索することができるのかと思いますので、そこも含めて考えていくと良いのかなと思います。</p>
小笹委員	<p>そこで一次産業に触れる機会がすごく増えてくると思います。ガッツリ最初から産業体験に入っていくというよりも、そこで何回か足を運んだりとか松江市に対して、関係人口が増えていったり、知る機会とかが増えてくると、すごいどっぷり浸かるという、すごい覚悟がある世界じゃなくて、例えば、収穫体験に行くとか、漁業体験をするとか、加工体験をするとか、いろいろな可能性としてできると思うので、そこに触れることで、この業界とか松江市に住んでみたいなっていうところに繋がるのではないかと思います。</p> <p>仕事をしに松江市に行くのではなくて、松江市に住みたいから松江市に来るということで、その中で、いっぱい仕事があってっていう選択の自由ってのはすごくあるなと思います。</p> <p>この前、海士町の特定地域づくり事業協同組合のAMU WORKさんとお話させていただきましたが、僕らも特定地域づくり事業協同組合を立ち上げていこうと思いますが、そういった面でもまだまだやれる可能性っていうのがすごくあると思います。</p>
河野委員	<p>関連しますが、今すごく良いこと言われたなと思いました。</p> <p>先程ご紹介していただいたシジミのカップスープも、メインは観光客の皆さんです。やはり堀川遊覧船に乗られる方に対する提供がメインですので。ということを考えたら、先程の農林水産体験みたいなものも、やはり観光なので、次の計画策定のところに記載がなかったですが、観光との連携みたいなものを入れられると、松江は消費地域でもあるので、育てる、獲るだけじゃなくてそれをどう消費していくか、そして観光客にどうやってPRしていくか、インバウンドも含めて、国内外の人にどうPRしていくかという観光の視点もちょっとここに入ると良いと思いました。</p>
小笹委員	<p>海士町は、仕事をしに来るのでなく、住みたいと言って行く人がすごく多くて、その中で仕事をマッチングさせていくっていうことを一部やられているということで。しかも研修中には期待していなくて、それが続けば良いっていう感じで。結構、研修中に定住してよね、移住してよねという感じのところはすごくあったりするけど、そういったところから崩して、まずはこうでも良いの</p>

<p>吉岡委員</p>	<p>かなとすごく思いました。</p> <p>農業の担い手のところでいつも感じることは、就農してよって言われる割に、就農のハードルがめちゃくちゃ高いところから出されると感じます。年間の売り上げはこれぐらいが最低ですよとか、このぐらいの面積持ってくださいとかじゃなくて、体験から、ちょっと自分で食べるものを作ってみようかなとか、じゃがいもだけ自給できるようにしようかなとか、それぐらいすごく簡単なレベルから農業をやっているんだよってということを言っていたくと、もうちょっと興味あるし、やってみたいっていう方たくさんいらっしゃるし、その声も聞くし、私のところに収穫体験来られる方もそういう、例えば子供が小さいけどそこで食べるものだけは作ってみたいっていう方は松江市内にたくさんおられるし、都市部だとさらにもっと多いと思います。例えば、先ほど説明の時におっしゃっていったように、農業の担い手として、例えば法人として農業します、個人で起業して農業します、副業でしますっていう方もおられるし、週末だけ手伝いますっていう方も農業って言っているかなと思っています。そういう何かバリエーションをいろいろ市の方からも提示していただけると、選ぶ方も選びやすいのではないかな、足を踏み入れやすいのではないかなというふうに感じました。</p>
<p>議長（保永会長）</p>	<p>この体系も実はこの生活のところがベーシックになって、その上で産業というのが良いかもしれません。</p>
<p>事務局（松浦部長）</p>	<p>今お話があった体験型のものというのは非常に重要なものだと思います。ものづくり関係ですとオープンファクトリーというのが有名で、工場とか生産現場を常に開放して、場所によっては入場料まで取って、見せているというものがあります。結構儲かっているということとか、就業者を入口にしてやってみようかなってということで人材確保の一つのツールになっています。同じように、今オープンカンパニーというものをやろうとしていまして、やはり働き手が常に気軽に見てもらって、今の若者は構えた格好でやることを非常に嫌いますので、何となく自分の都合で見に来て、自分で解釈して、合っているなと思ったらやってみる。吉岡委員がおっしゃったように、がっつり最初からやれって言うとなんか嫌がるので、だから自分のペースでできるようなやり方は、良いと思っています。</p> <p>松江市はワーケーションということで、これ普通はワークアンドバケーションと言いますが、そうではなくてワーカーアンドコミュニケーションと銘打って、松江式ワーケーションというのをやっています。何が違うのかと言いますと、先程、岸本副会長がおっしゃったように、松江はまさに日本が抱えてる課</p>

題の縮図の地域です。ここでの課題を解決できれば、日本全国で解決できるのではないかと、もしくは世界中が、中国もどこも少子高齢化に今突入していますので、どこでも一つの商品として通用するのではないかとということ勝手に思っていて、やっていますが、そういうことで、その地域の方々と、地元の企業と、都会から来た皆さんが、いろいろな課題を話し合ったり、体験してもらったりというメニューを入れています。

例えば、そういう中に、今の一次産業の皆さん方の体験的なものをちょっとメニューに加えさせていただいて、口コミで広げていただいたり、ご興味のある方はもしかしたら就業していただくかもしれません。

というようなことにしたり、河野委員からもありました、インバウンド対策ということで、外国人の皆さん、特に欧米、ヨーロッパの方は、体験型の観光を非常に好まれることがあり、1回のめり込むと何度もされるコアな方が多いです。そういった方々が、松江の地域に実はひそかに来ていらっしやいまして、口コミで広げていただいている部分があるので、今おっしゃったような眺めていただくとか体験していただくというのは非常に入口としては良いことだと思いますので、一次産業の皆さん、ご協力いただける方も含めて、具体的に考えさせていただけたらと思います。また、こういう計画の体系図にも載せさせていただくことも大事なことだと思いました。ありがたいご意見、ありがとうございました。

松尾委員

いろいろなご意見を聞かせていただいて、生産者ではございませんので、日々サンプルや商品を見させていただいて、本当に尊敬の念に堪えないというか、その相当の努力がきっとおありだろうと、いつもお話を聞かせていただいている立場でございます。

今日特に思ったのは、先程の観光ですね。体験型といったところを、ぜひ、次の基本計画に盛り込むべきだろうなと思いました。

あと宍道湖のシジミですとか、それから野菜もそうですし、松江に古くからある伝統的な食材や料理も伝えていくような部分も、次の計画に盛り込んでいけたら良いのかなと思います。

我々にできることと言えば、松江市さんと共同で、例えば、横の繋がり、構築といったところで、農水商工連携協議会でやってらっしゃる事業者交流会の方に、我々の方も手伝いさせていただきまして、もっと事業者の皆さん同士の交流と、それから県内外のバイヤーさんなどと繋いで、商品開発、それから新しいものだけでなく、古くからのものも伝え続けていけるような、お手伝いできたかなというふうに思っております。また具体的なことはおそらく次の会議で示されていくのかなと思いますので、ぜひ聞かせていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

議長（保永会長）	<p>スケジュール的には、第2回が1月、最終が3月ということで、進めていただけたらと思います。</p> <p>今回の体系案についてですが、別途、期限を設けてご意見を集約させていただきたいと思います。もう少しご意見がある場合は、10日後の11月27日までに、事務局の方にご意見を提出していただきたいと思います。なお、各委員からいただいたご意見の集約については、会長一任とさせていただき、次回の委員会の開催のときにお示しいただくという流れになろうかと思っています。</p> <p>ただし、委員の皆様にお諮りする必要があると判断する場合は、委員会を開催させていただこうと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜異議なし（各委員）＞</p> <p>他には何かご意見等ありますでしょうか。 特になければ、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局（渡部副主任）	<p>その他「意見書について」説明</p> <p>その他「会議録について」説明</p> <p>本日の会議録は、市のホームページ等に公開することとなっています。そのため、ご発言をいただきました委員の皆様と保永会長様に内容をご確認いただき最終的には保永会長様に全体を見ていただいて議事録署名をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜異議なし（各委員）＞</p>
事務局（恩田農政課長）	<p>その他「農mersについて」説明</p>
事務局（永井次長）	<p>保永会長には、円滑な議事運営をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>また、委員の皆様におかれましても、長時間にわたりご審議いただき、また、貴重なご意見を賜りましたことに感謝申し上げます。</p> <p>以上をもちまして、令和5年度第1回松江市農山漁村地域活性化委員会を閉会いたします。</p> <p>皆様本当ありがとうございました。お疲れ様でした。</p>

<15時30分、閉会>

令和5年度 第1回松江市農山漁村地域活性化委員会 議事録

署名

会長

\_\_\_\_\_